

幼児期の舞踊体験が育む表現性と自己肯定感について

— 民踊への取組みを手掛かりとして —

Expressiveness and Self-esteem Developed by Dancing Experience in Childhood

— Focusing on Japanese Folk Dance Activities —

児童学科 梅谷 千代子

UMETANI Chiyoko

はじめに

この半世紀、日本社会は都市化、工業化、情報化、高学歴化、核家族化、少子化など大きな変化を遂げてきた。このような社会や環境の変化の中で育つ子どもたちには、過去とは違うところとからだの変化が実態調査として報告されている。

子どものからだの調査2005（“実感”調査）（子どものからだと心・連絡会議、2009）によれば、「アレルギー」と「すぐ“疲れた”と言う」がワースト5にランクされている。

体力テストでは1980年代後半以降低下が報告されているし、原因として幼少年期の発達課題とされる運動動作の発達に関して「体力そのものより動きを習得していない子が多い」ことが指摘されている（中村、2010）。

さらに、OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2015年調査国際結果報告書の『生徒のwell-being（生徒の「健やかさ・幸福度」）』によれば、日本の生徒は「十分に満足」23.8%、「満足」37.3%、「まあ満足」22.9%、「満足していない」16.1%、平均値は0～10の11段階中6.8であり、OECD平均の平均値7.3と比べ0.5低い。Well-beingは「心理的」「社会的」「認知的」「身体的」と大きく四つの特徴（dimension）があり、各特徴には様々な側面（aspect）が存在し、これらの特徴が相互に関連し、その相互作用の結果としてwell-beingの状態があると捉えられている。他の先進国の子どもたちに比べ、日本の子どもは成績が良いけれども自己肯定感、効力感が低く、自己存在感が薄いと言われる。平成20年1月中教審は、肯定感の低さや将来への不安が高い日本人青年の姿に「伝統や文化についての深い理解は、他者や社会との関係だけではなく、自己と対話しながら自分を深めていく上でも極めて重要」と答申している。「伝統と文化」を尊重する教育は①国際社会において重要な役割と交流を推進する日本人としての資質形成、②自己をみつめ自己の生き方を深める、といった大きな意義を見出すことができよう。

筆者は富山県南砺市利賀村における民謡の伝承と地域の活性化についてや、「伝統と文化」を尊重する教育活動についてなどを共同研究している。それらを踏まえて、本稿では幼児期に伝統文化である「民謡」「民踊」を体験することの意義について表現性と自己肯定感の二面から考察を試みたい。

1. 研究の目的

幼児期に伝統文化である「民謡」「民踊」を体験することで育まれる表現性と自己肯定感について明らかにすることにある。

2. 研究の方法

富山県立南砺平高等学校郷土芸能部部員へのアンケート調査、および聞き取り調査をし、結果を分析する。

(1) アンケート調査

対 象 富山県立南砺平高等学校郷土芸能部部員48名(1,2,3年生)

実施期間 平成29年7月21日～25日 練習時間前後

方 法 質問紙を配布し後日回収(回収率100%)

(2) 聞き取り調査

実施期間 第1回 平成29年7月12日～13日

第2回 平成29年8月24日～25日

対 象 者 富山県立南砺平高等学校郷土芸能部部員に対し実施(VTR録画も併用)

場 所 富山県立南砺平高等学校教室

富山県南砺市平地区こきりこ館

3. 表現について

(1) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示)

第2章 ねらい及び内容については平成20年告示の現行のままであるが、

(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。

(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ、がねらいである。

2の内容から身体表現に関わる項目をあげると

(1)生活の中で様々な音、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

(2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。

(3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

(4)感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

(8)自分のイメージや動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

内容の取扱いには、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること、とある。

第3章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項が新設され、教育基本法第2条に掲げる次の目標を達成するように行わなければならないと明記された。特にその5に伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことがある。学校教育の始まりとして、一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められているのである。

(2) 小学校学習指導要領(平成29年3月告示)

第9節体育では心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指している。以下、表現や舞踊に関わる記述を列挙する。

1) 第1学年及び第2学年 F 表現リズム遊びの内容

(1)次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ること。

ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え、全身で踊ること。

イ リズム遊びでは軽快なリズムに乗って踊ること。

(2)身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。

内容の取扱いとして、(1)イについては、簡単なフォークダンスを含めて指導することができる。とある。

2) 第3学年及び第4学年 F 表現運動

(3)運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりする。

内容の取扱いとして学校や地域の実態に応じてフォークダンスを加えて指導することができる、とある。

3) 第5学年及び第6学年 F 表現運動

(1)次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流すること。

ア 表現では、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすること。

イ フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。

身体表現ではどの年代でも、美しさ、楽しさ、リズム、伝え合う楽しさ、誰とでも仲よく踊ったり友達の考えを認めたりということばが出現する。

4. 自己肯定感について

自己肯定感とは、「自己自身の存在に対する認識として、自己の身体的な特徴や能力や性格などについて肯定的に考えたり、感じたりする感情をさす。」(「教育用語辞典」山崎秀則・片上宗二 ミネルヴァ書房)と定義される。周りから認めてもらいたいという自尊の欲求と、あたたかく迎えてくれる集団や個人を求め所属の欲求により、自己肯定感をもつことができる。自己実現へ向かうための大切な感情である。

自己肯定感が高まった状態は、自分のよさを知り(自己理解)、ありのままの自分を受け入れ自分の事が好きになること(自己受容)であり、他者から認められたり、受け入れられたりすること(他者理解)により、自己肯定感が育つと考えられる。自分の存在が認められ、受け入れられている実感が持てる時、良いところ、良くないところも含めたありのままの自分を肯定的にとらえることができるのであろう。

5. アンケート調査結果と分析

(1) 富山県立南砺平高等学校郷土芸能部の部員構成について

表1 平成29年度南砺平高校郷土芸能部の構成 単位(人)

学年	男性	踊り手	地方	五箇山出身	他地域出身	幼児期に踊る	高校から踊る
1年	7	7	0	3	4	2	3
2年	4	3	1他1	0	4		3
3年	3	3	0	2	1	1	0
計	14	13	1	5	9	3	6

* 地方の他+数字は 地方担当者の内、他地域出身者の数を表す

単位 (人)

学年	女性	踊り手	地方	五箇山出身	他地域出身	幼児期に踊る	高校から踊る
1年	10	7	3他1	7	3	4	3
2年	14	8	6他4	2	12	2	11
3年	10	6	4他0	4	6幼児五箇山1	7	2
計	34	21	13	13	21	13	16

* 地方の他+数字は 地方担当者の内、他地域出身者の数を表す

(2) 設問2 民謡を踊った記憶について

表2 「性別」「何歳ごろから民謡を踊った記憶があるか」クロス集計表 単位 (人)

	3歳未満	3歳～ 小学校就学前	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学生	高校生
男	2	1	3	0	0	1	6
女	2	11	3	0	0	1	16

男子生徒の内3名、女子生徒の内13名は就学前に民謡を踊った記憶がある。

(3) 生活と民謡体験について

表3 「どこに住んでいたか」「何歳ごろから民謡を踊った記憶があるか」クロス集計表 単位 (人)

	3歳未満	3歳～ 小学校 就学前	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学生	高校生
幼児期から五箇山に 住んでいる	2	6	2	0	0	0	0
五箇山に住んだことは ない	2	3	0	0	0	2	22
幼児期のみ五箇山に 住んでいた	0	1	1	0	0	0	0

幼児期に五箇山地域に住んでいる人は、全員が小学校低学年までに民謡・民踊を踊った記憶がある。

(4) 設問3 民謡の魅力について

アンケートの回答については対象者が少数のため、全表記する。

[民謡を踊った記憶が3歳未満 n = 4]

- ・どこで披露しても拍手が起きる ・皆で楽しめる ・一体感
- ・いろいろな楽器が一つの音になり、それに合わせて踊る

[民謡を踊った記憶が3歳～小学校就学前 n = 12]

- ・一体感 ・みんなで踊れる。一人一人でなくたくさんで踊る
- ・昔から受け継がれている ・昔からそのまま進化したところがあるところ
- ・たくさんの曲があり、受け継いでいるところ ・昔ながらの踊り
- ・日々の生活が映し出される、ひとつのパートから三味線踊りなどが合い舞台発表へ
- ・歴史や歌詞に込められた昔の人の思いが伝わること
- ・年代関係なく交流ができ仲良くなれる ・皆が楽しく踊れる
- ・見ている人が楽しい気持ちになる ・いろんな人が楽しめる

[民謡を踊った記憶が小学校低学年 n = 6]

- ・伝統がある ・昔から伝わってきたところ
- ・それぞれの踊りの美しさ
- ・それぞれの動きに意味がある
- ・古くから伝わる。地方（じかた）と踊りがそろうときれい
- ・一体感が得られる

音と踊りの一体感、皆で踊る一体感を味わえるのが民謡・民踊の魅力であり、昔から伝わり引き継がれている分、昔と通じることができるし年長者たちとも交流できるのが民謡・民踊の魅力であるという回答が多かった。

(5) 設問4 民謡の難しさについて

アンケートの回答については対象者が少数のため全表記する。

[民謡を踊った記憶が3歳未満 n = 4]

- ・からだと道具でストーリーの表現 ・踊りのもととなった動作に近づけるところ
- ・手や足など細かい部分で踊りが変わる
- ・合わせるところ

[民謡を踊った記憶が3歳～小学校就学前 n = 12]

- ・しなやかに踊る ・しなやなさ
- ・自分の思いを表情以外で表現、同じように表現できない
- ・歌や踊りに意味がある、複雑な踊りがある
- ・皆でそろえる ・なかなか合わせられない ・全員の動き、気持ちを一つにする
- ・合わせるところ ・合わせるところ ・踊りをそろえる ・合わせるところ ・合わせるところ
- ・練習を積み重ねないと身につかない

[民謡を踊った記憶が小学校低学年 n = 6]

- ・地方と踊りがきっちり合う
- ・速い曲についていけない事
- ・そろえるところ、昔のものなのに高校生らしさを出すところ
- ・指導者の踊りに近づける
- ・体全体を使って表現
- ・皆が同じ方向に向かい、皆の息がそろわなければならない

地方と踊り、踊り手皆で合わせるのが難しい。しなやかに踊る、意味を理解して踊るのが難しい、つまり表現性豊かに踊るのが難しさであると回答している。

(6) 設問5 民謡の練習で楽しく感じる瞬間について

[民謡を踊った記憶が3歳未満 n = 4]

- ・自分がかっこよく見えた時
- ・地方と合わせた時
- ・踊れた時 ・皆で楽しめるところ

〔民謡を踊った記憶が3歳～小学校就学前 n = 12〕

- ・踊りがそろった時 ・全体が合った時 ・皆がそろった時 ・全体がそろった時
- ・踊りがそろった時、指導者たちと昔の話などのコミュニケーション
- ・全体がそろって一体感が出せるところ ・みんながそろってきたとき
- ・皆で合わさった演技ができた時 ・皆で発表を終えた時
- ・苦手なところができるようになったとき ・練習してうまくなる ・できなかったことができた時

〔民謡を踊った記憶が小学校低学年 n = 6〕

- ・動きがそろった時 ・みんなの踊りがそろった時 ・パートのみんながそろった時
- ・パートのみんながそろった時
- ・できなかった所ができた時
- ・すべてがそろった時、前より成長して上手に弾けたとき、三味を弾ける日
- ・上手く踊れていると感じた日

地方と踊りがそろったとき、全体がそろって一体感が出た時に練習で楽しいと感じている。またできなかったところが練習によりできた時に楽しいと感じている。

(7) 設問8 民謡を踊ったことのない高校生にどこを見てほしいかについて

〔民謡を踊った記憶が3歳未満 n = 4〕

- ・構成
- ・日本の伝統の踊りというところ
- ・いきいきしているところ
- ・五箇山民謡の数の多さ

〔民謡を踊った記憶が3歳～小学校就学前 n = 12〕

- ・元気の良さ ・高校生らしさ、笑顔で踊る、皆で合う
- ・高校生らしい魅力を出しているか、演目に強弱があるか
- ・美しい衣装とそれぞれの踊りの特徴
- ・今できる最大限の踊りを全力でやる
- ・元気、楽しんでいる風景
- ・一体感 ・踊りの一体感
- ・全体の雰囲気 ・全体 ・全体
- ・華やかさ

〔民謡を踊った記憶が小学校低学年 n = 6〕

- ・キレのある若々しさ ・高校生らしいキレのある動き
- ・いきいきとしたところ
- ・相手も踊りたくなる踊りを見て欲しい
- ・全部 ・そろっているところ ・地方と踊りの一体感

高校生らしい元気のある演技、キレのある動き、全体の一体感や雰囲気を同じ高校生たちに見て欲しいと思っている。

(8) 設問9 どのように褒められるのが嬉しいかについて

[民謡を踊った記憶が3歳未満 n = 4]

- ・動きが大きい
- ・手先がきれい
- ・上手く踊れたね ・上手だねと言われた時

[民謡を踊った記憶が3歳～小学校就学前 n = 12]

- ・高校生らしさ、踊りが合っているところ
- ・そろっていた、きれい ・そろっていた ・そろっている
- ・そろったね、上手だった ・皆がそろっていてきれい
- ・全体の一つに見える ・美しい音色と美しくそろっているね
- ・練習をしてきたところを気づいてもらえた時
- ・上手やった ・感動した
- ・キレイ、女らしさ

[民謡を踊った記憶が小学校低学年 n = 6]

- ・全体でそろろう ・どこがそろっていてきれいだ
- ・一体感があること、三味の事
- ・ほめられる・笑顔が素敵
- ・不得手な部分ができしたこと

動きが大きい、高校生らしさを持ちつつそろっていた、上手だった、感動したというように褒められると嬉しいという回答であった。

6. 聞き取り調査の結果

富山県立南砺平高等学校郷土芸能部部員に聞き取り調査を行った。個人の場合とグループがあり。

1) 高校3年生女子Aさん、五箇山在住 1歳半に民謡・民踊を踊った。地方担当

- ・幼少時より家族、親戚が集まると皆で踊った。
- ・自分も一緒に踊れ、嬉しかったし楽しかった。

踊ることは好きであるが、地方の練習には時間がかかるため、五箇山出身者が地方担当になることが多い。それを嫌だとは思わない。

○1歳半の記憶に驚いたが、他の生徒にも2歳、3歳と小さい頃から踊った記憶のある生徒が多かった。

郷土芸能部は正座での挨拶をするが、聞き取り調査の間中も正座であった。姿勢を正した生徒からは美しい丁寧な言葉が続いた。

2) 高校1年生男子Bさん 五箇山在住 5歳ころ民謡・民踊を踊った。踊り手担当

- ・幼児期から麦や節を踊る父の姿がかっこよく思えた。
- ・平の民謡を広げていきたいし、自分も続けていきたい。

○話すことばは小さく聞き取りにくいほどであるが、踊る姿は緊張しながらも自信たっぷり、堂々としていた。練習はジャージにTシャツ姿であるが、笠、手ぬぐいなどの小物は使っていた。

乳幼児期に踊った記憶がある人は、自宅に人が集まり踊ったり、保育所で踊ったりと回答している。家族、親戚一同が集まり、一つの民謡を踊る、そこに自分も入って踊っている、という事実は、自分もこの地域の構成員という自信につながるものであろう。

7. まとめ

幼児期の舞踊体験が育む表現性と自己肯定感について、幼少時に民謡・民踊と関わりのあった高校生たちへのアンケート調査及び聞き取り調査から考察を試みた。

幼児期までに民謡・民踊に触れる機会があるかどうかは、地域や家族の影響が大きい。富山県南砺市五箇山地区で育った子どもたちは、生活の一部に民謡があり、家庭の内外で何かイベントがあるごとに民謡に触れ、踊り歌い地域の構成員の一員としての自分を見出している。自分の所属を理解し、自分を肯定できる活動と思われる。そして幼児期であっても、民謡・民踊の魅力として、踊る楽しみ、皆で一緒に作り上げていく楽しさを感じている。また相手を意識してきれいに踊る、その歌詞が持つイメージを踊りで表現するなど幼稚園教育要領「表現」のねらいや内容に合致する行動がたくさん見られる。幼児期に地域独自の民謡・民踊に触れることは、幼児の豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることに繋がるものである。民謡・民踊は昔のものでなく今に生きているものであり、リズムにしても楽しめるものである。

今回のアンケート及び聞き取り調査の回答には、バレエレッスン体験で出てきた「姿勢が良くなった」「柔軟性が高まった」といった身体の変化や力の変化に関しての出現がなかった。

民踊体験では個人レベルでなく、集団での変化や人との関わりが優位にあると考えられる。

同時に「伝統と文化」に自然と触れる教育活動であり、子どもたちが日本人としての自覚を持ち、国際社会で主体的に生きるための基礎となると考えられる。

参考文献

- ・『幼稚園教育要領』 文部科学省（2017年）
- ・『小学校学習指導要領』 文部科学省（2017年）
- ・『OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2015年調査国際結果報告書』 国立教育政策研究所（2016年）
- ・『生きるための知識と技能』 国立教育政策研究所（2016年）
- ・名須川知子・池田裕恵『幼児の身体表現の意味についての研究』（1993年）
- ・梅谷千代子・菱田隆昭・岩川真紀『伝統と文化を尊重する教育活動について—富山県南砺市立利賀村中学校の民謡学習を通して—』 東京家政大学教員養成教育推進室年報第3号（2016年）
- ・梅谷千代子・伊藤安代『バレエが女子学生の心身に及ぼす効果について』 東京家政大学研究紀要第52集（1）2012 p.p.55～64

民謡に関するアンケート

2017年7月

先日、南砺平高校郷土芸能部の練習を見学させていただきました。皆様とお話をしたり、練習を拝見する機会を本当にありがとうございました。お話を伺いながら、郷土芸能部の皆様と民謡との関わりについて大変興味を持ちました。研究目的以外には使用しません。どうぞ正直にお答えいただけますようお願い申し上げます。

数字に○をつける、あるいは文章でお答えください。

あなたは 学年 年 : 1 男 2 女 : 担当は 1 踊り手 2 地方

家族に五箇山地区出身者が 1) いる (具体的に) 2) いない

1 どこで生活していましたか。

幼児期	1	五箇山地区に住んでいた	2	五箇山地区以外に住んでいた
小学校時代	1	五箇山地区に住んでいた	2	五箇山地区以外に住んでいた
中学時代	1	五箇山地区に住んでいた	2	五箇山地区以外に住んでいた

2-1 何歳頃から民謡を踊った記憶がありますか。

1) 3歳未満 2) 3歳~小学校就学前 3) 小学校低学年 4) 小学校中学年
5) 小学校高学年 6) 中学生 7) 高校生

2-2 1で「3歳未満、3歳~小学校就学前」と答えた方 それはどこですか。

(いくつでも回答可)

幼稚園・保育所、自分の家、近所の家、公民館・集会所、小学校や中学校、盆踊り祭りの会場、その他(具体的に)

3 民謡の魅力はどんなところにありますか。

4 民謡の難しさはどのような点ですか。

5 民謡の練習で楽しく感じる瞬間はどのような時ですか。

6-1 舞台やイベントに出演するのは好きですか。 1) はい 2) いいえ

6-2 1で「はい」と答えた方 なぜですか。

7 衣装や小物をもって踊るのは好きですか。操作は難しいですか。

1) はい 2) いいえ 1) はい 2) いいえ

8 民謡を踊ったことがない高校生に、皆さんの絵文祭でのパフォーマンスをみせるとしたら、まずどのようなところを見て欲しいですか。

9 パフォーマンスに対してどのようにほめられるのが一番うれしいですか。

ご協力ありがとうございました。

東京家政大学児童学科 梅谷千代子